

世田谷西部支部

天理教世田谷西部支部（東世分教会内） 発行責任者 岡庭正行 編集 支部編集部

令和 2 年 5 月 1 日発行
〒 156-0054
桜丘 2-6-3
TEL 3429-3271

5 月

感染症拡大に伴い、支部としては以下のように決定いたしましたのでお知らせいたします。

○ 支部例会について

急速に感染・拡大する新型コロナウイルスの影響を鑑み、支部例会は 8 月まで **中止** とさせていただきます。

○ 幹事会について

幹事会は 5 月より、毎月 7 日の午前 10 時から、東世分教会で行わせて頂きます。

○ 教区ひのきしんについて

当面、世田谷西部支部としては教区ひのきしんは見合わせます。

今後とも、様々な行事の変更やお知らせが続く可能性があります。ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

天理教教会本部ホームページ

「新型コロナウイルス感染症の対応について」
<https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/category/information/covid19-info/>



世田谷西部支部ホームページ

<https://tenrikyou-setagayaseibu.jimdofree.com/>



☆ 支部行事のお知らせ

- ・ 支部幹事会
5 月 7 日（木）10 時より
会場 東世分教会
- ・ 教区ひのきしん
支部としては当面見合わせます
- ・ 婦人会例会
例会はしばらくお休みさせて頂きます
- ・ 羽根木公園月例ひのきしん
日時 5 月から 11 月までの毎月 22 日
午前 9 時半～11 時まで
会場 羽根木公園
※管理事務所付近にご集合ください
作業 草取り、掃き掃除等の軽作業
※カマ等は各自でご持参下さい
雨天中止、小雨の場合は、南豊島分教会、志村まで（TEL 090-3049-2749）



世田谷西部支部 婦人会主催

母親講座 **中止** のお知らせ

5 月 17 日（日）に予定しておりました
母親講座は、中止することとなりました。

5 月 30 日～31 日に教務
支庁で予定しておりました
第 13 回「東京わかぎ塾」で
すが、中止することとなりました。

『天理時報』手配り一時休止のお知らせ

（道友社ホームページより 2020 年 4 月 2 日）

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、不要不急の外出を自粛する要請が各地で出されている現状を踏まえ、「天理時報」の手配りひのきしん活動を 4 月 5 日号から一時休止し、郵送による直送へと切り替えることにいたします。

なお、手配りの再開は、天理時報紙面ならびに道友社ホームページでお知らせいたします。

天理時報普及・手配り事務局

電話番号：0743-63-0592

（受付時間 9:30～16:30 ※日・祝除く）

支部会報 500 号記念 特別寄稿

祝・支部報五百号
元の理の親心を伝える布教を

六代支部長 橋本武昭

支部報が昭和43年8月に発刊されて500号を迎えた。半世紀の歴史、支部報に携わった皆様に敬意を表します。

私は昭和48年(32才)の時に、支部とのご縁をいただき、一番若輩でしたが、多くの先輩先生方と出会い指導を頂いた。月日の流れと共に世代交代し、平成16年から2期6年支部長をつとめさせて頂いた。

毎年成人講座、2回の陽気ぐらし講座、おつとめ総会、全教一斉ひのきしんデーの会場を大蔵運動公園で実施し、折々に移動例会を行い、支部内の交流を深めた。また「一家庭に一紙」と呼びかけ、天理時報の購読推進と手配り活動の定着につとめた。更にまた当時、世田谷には東部、中央、西部の3支部があり、中央支部との合併が成立し今日に及んでいる。

しかし近年、道の教勢が右下がりあることが残念に思う。高齢化や宗教離れもあるかもしれないが、全体に布教力が低下し、私たちの信仰姿勢が問われているように思う。この道は心だすけの教えと聞かせて頂く。

私は73才まで医者通いや葉の世話になることもなく、健康体で通らせて頂いたが、5年前のある日、突如脳出

血で倒れ、救急車で運ばれ、医者から今晚が峠だと家族に宣告された。気がついた時には体の半身が障害で手足の自由を失い、歩行もできなくなった。元には戻れない、自分の人生がこれで終わったかと思うと、悔しく涙がこぼれた。悶々とした日々が流れた。少し冷静さを取り戻し、それでも障害ながらも命は助かった。目も見え、耳も聞こえる、食べることもできる。病は神の手引きと聞かせて頂くが、その理合いを思案した。

そもそも命とは何かを考えた。お道の「元の理」の教えに立ち返った。神様は泥海の中から人間創造を思いつかれ、陽気ぐらしするのを見て神も共に楽しみたいと思召され、この世の人間世界を始められた。

今の自分の命は親々から戴いた命であるが、元の理の筋書き通りとすれば、幾代を重ねたことだろうか。永い間には、厳しい自然環境もあった、他の生き物との淘汰もあった、戦争や流行病等幾つもの試練があった。しかし一度も切れ目なく続いた。偶然か、運が良く生きて生き残ったのか、教典の一文には「一度教えられた守護の働き」と記されている。親神はいつしか人間の陽気ぐらしをするのを神も共に楽しみたいとの思いで、永々と成人の守護を下された。このことを思う時、親神の計り知れ得ない親心を感じざるを得なかった。

教祖が立教以来、月日の社にお定まり下されたのは、おふでさきに「この元をどうぞ世界へ教えなさ」そこで月日があ

らわれて出た」とお教え頂くように、「人間元始まりの真実」を説き明かすことであつた。

この道は、「心だすけ」の教えと聞かせて頂く。心だすけとは、生命の本元を理解し、親神様の守護によって生かされた命であることを悟り、生きる目標である陽気ぐらしへと心の向きが変わることである。

以来私は、命の本元を実感させて頂き、心の明るさを取り戻し、何事も前向きな心に変わった。リハビリも進んで取り組み、感謝と喜びの心が多く持てるようになった。

さて今日コロナウィルスが世界に蔓延し、その終息は一向に見えず、人類にとって大きな試練に直面している。

教祖の時代の明治12年に日本ではコレラが大流行し、国内感染者が16万人、死者10万人を超えたと記録されている。その頃のおふでさきに「世界にはコレラと言うているけれども月日さんねんしらすことなり」と、又この3つ先のお歌には「月日には人間はじめかけたのは 陽気遊山がみたいゆへから」と詠まれている。当時明治政府は、皇祖神を崇める神道を国教とし、教祖の元始まりの教えを否定

し、弾圧干渉を強めた。結果として教祖は度々獄舎のご苦勞を下された。教祖は官憲の無理解に對して「残念」と仰せられた。

今日のウィルスに対する親神の残念を晴らすには、私たちは元の理に立ち返って思案し、私たち人間の上にお掛け下された尽きない親心と陽気世界への目標を見定めて、心を立て直すことが急がれていると思う。

今年4月の婦人会本部記念総会が、ウィルス感染防止のため中止となった。総会に向けて中山はるえ婦人会長は、折々に元のお話をされ、この教理を伝えることが布教であると強調された。

神様と言えど、姿や形で見る事も表すことも出来ない。信ずる者の心の中に宿り、言動を通して伝承されていく。元の理にこもる親心を伝える布教が求められていると思う。



令和二年 法人事務指導のご案内

本年も、備え付け帳簿の写しを都庁へ提出するにあたり、法人事務指導を実施いたします。合わせて、財産目録の元となる財産台帳の事務指導も行います。

日時 5月30日(土)午前10時より(※法人教会は午前中からお越しください)

場所 本月分教会

住所 代田1-26-19 (Tel 03-3413-7771)